

2019年度ダイバーシティ推進に関する意識調査

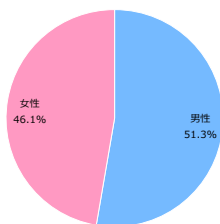
名古屋工業大学

- ◆調査目的 : ダイバーシティに関わる学内施策の認知・浸透の把握を行うとともに、学内の実態把握を行い、今後の活動の参考資料とすることを目的とする。
- ◆調査対象 : 本学教職員
- ◆調査方法 : インターネットリサーチ
- ◆調査時期 : 2020年2月14日（金）～3月7日（土）
- ◆有効回答数 : 152サンプル

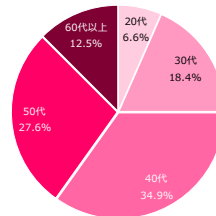
1

回答者プロフィール n=152

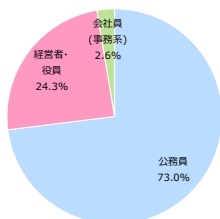
性別



年代



勤務形態



2

調査結果の要約

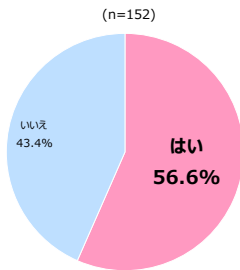
1. 学内ダイバーシティ推進状況把握 -全体

本学のダイバーシティ推進事業について

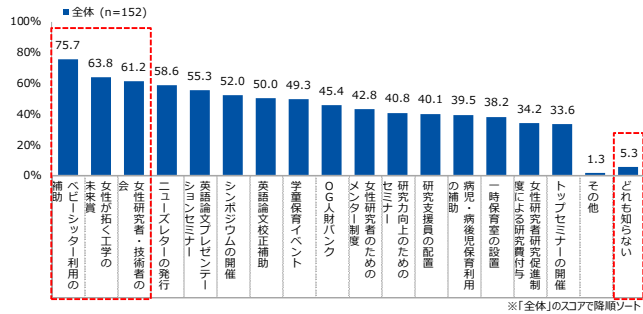
- ・「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ（特色型）」に採択されたことの認知率は57%。
- ・認知率が高い取り組みは、「ベビーシッター利用の補助」「女性が拓く工学の未来賞」「女性研究者・技術者の会」で6割以上と高い。

▶「どれも知らない」は5%と少数で、大半は何かしらの取り組みを認知している。

Q1：文科省の「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ（特色型）」採択の認知



Q2：「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ（特色型）」一環の取り組みの認知



2. 学内ダイバーシティ推進状況把握 -育児

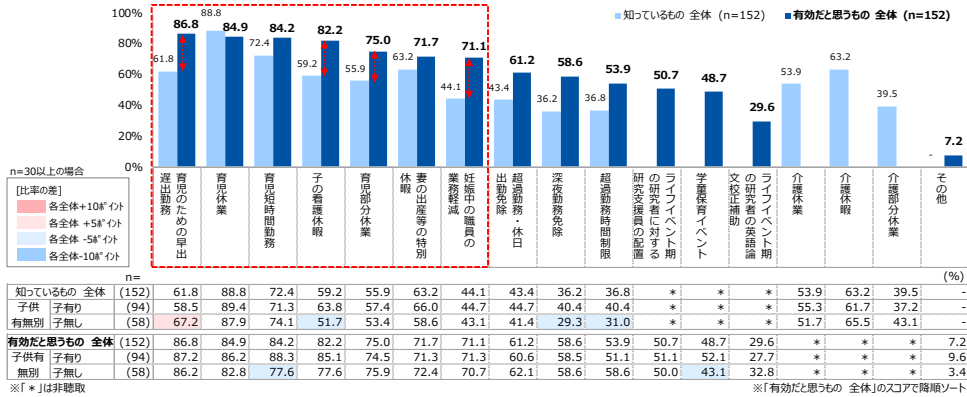
育児と仕事を両立させる上で、有効だと思う施策・制度

・有効だと思われる施策・制度は多い一方で、その認知率にはばらつきがある。

▶「育児休業」「育児短時間勤務」は認知率も高く、有効との認識率も高い。

▶「妊娠中の職員の業務軽減」「育児のための早出退勤勤務」「子の看護休暇」「育児部分休業」などは有効性は7割以上と高い一方で、認知率は6割以下とギャップがある。

Q3：勤務時間・休暇等に関する制度について知っているもの／Q4：育児と仕事を両立させる上で、有効だと思う施策・制度



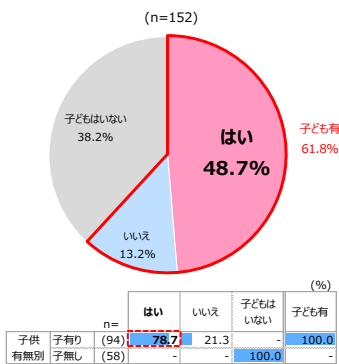
育児と仕事を両立させる上で、問題や困難に感じること

・育児と仕事の両立に、子有り層の8割弱が問題や困難に感じることがある。

・問題や困難に感じた内容では、「子供が病気の際」「子供のイベント時」が多く散見される。

▶他にも「子供とのコミュニケーション」面での困難も複数あがっている。

Q5：問題や困難に感じることの有無



Q6：問題や困難に感じた内容

※育児と仕事を両立させる上で、問題や困難に感じることがある(あった)方へ

- ▶ 保育園の送り迎えのため研究の時間が減る。子どもが熟を出して保育園に行けない時に、会議や講義があると休みにくい。特に講義の担当は代わりがないため、パートナーに休んでもらうしかないが、どちらも大事な仕事があった時にどうすれば良いかわからない。男性側が休暇を取りにくい。(男/30代)
- ▶ 子供が小学校に上がったが、子の看護が小学校入学前までしか取れなくて、子供の病気で毎回年休を使わなくては行かなくて、困っている。小学校のイベントと病気の対応だけで年休がなくなってしまう。(男/30代)
- ▶ 定期試験の処理など正確性が求められる作業や締切りが設定されている様々な雑用が非常に多いこと、講義などは別の人に交替することはできない。そのために、子供が入院した時の対応には苦労した。(男/50代)
- ▶ 高校生以下の子どもの夏休み、大学の夏休みが夫々ずれているので、子供の夏休みの間に海外出張に行こうとしても、行けなかった。大学だけ夏休みが違えばやめてほしい。(女/60代以上)
- ▶ 以前働いていた他の職場でのケースですが、子どもの病気のかり始め、あるいは回復途中での休暇をとる際に、周囲の理解が得られにくく、嫌がらせを受けたことがあります。(女/40代)
- ▶ 子供のイベントごとに会議等が重なることや授業が重なること。ただでさえ出張等で会議の欠席や補講を行っているの自分のためにそれを行うことは難しい。(男/40代)
- ▶ 残業ができないため、育児のない人と比べて研究時間の確保が難しい。センター試験などの休日出勤時の、家族の負担と子供に寂しい思いをさせている(女/40代)
- ▶ 今のよう制度が整ってなかったため、学校区の学童保育が定員オーバーで入れなかったこと。(女/50代)
- ▶ 子供と休みが合わないことが多くコミュニケーションをとる時間を確保するのが難しかった(女/50代)
- ▶ 残業等になった場合、育児に支障をきたす。(女/60代以上)

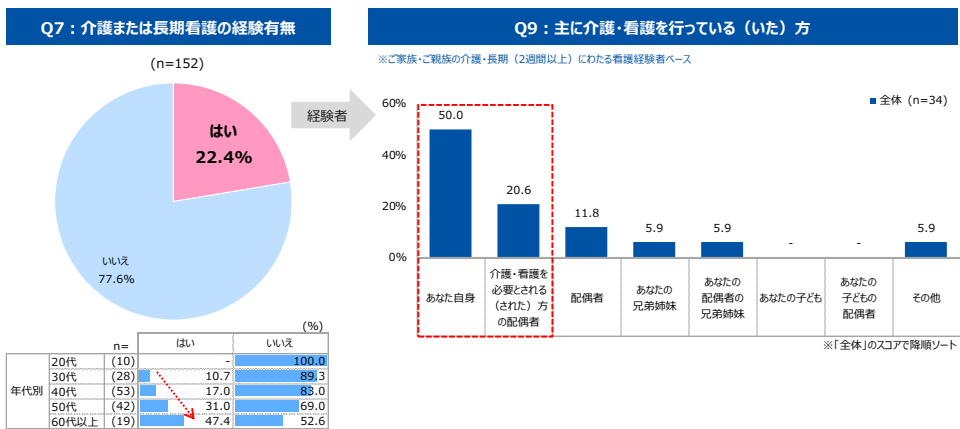
3. 学内ダイバーシティ推進状況把握 -介護・看護

ご家族・ご親族の介護・または長期（2週間以上）にわたる看護

・介護または長期看護の経験率は22%。

➤高年代ほど同経験率が高まる傾向で60代以上では47%にのぼる。

・主に介護・看護を行っているのは「本人」が多く、次いで「被介護・看護者の配偶者」。

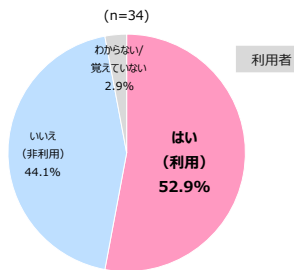


介護保険サービスの利用状況

- ・介護または長期看護経験者における介護保険サービスの利用経験率は53%。
- ・利用したサービスは、「自宅にいて受けるサービス」「通所して受けるサービス」が多く半数を超える。

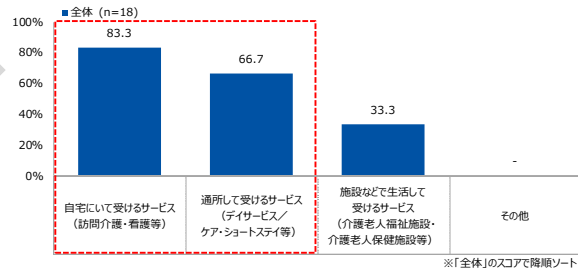
Q10：介護保険サービスの利用状況

※ご家族・ご親族の介護・長期（2週間以上）にわたる看護経験者ベース



Q11：利用した介護保険サービス

※介護保険サービス利用者ベース



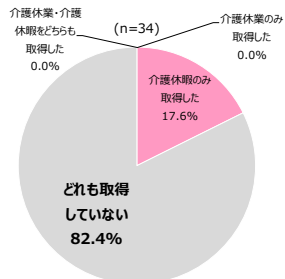
※「全体」のスコアで降順ソート

介護休業・休暇や仕事との両立の困難さ

- ・介護または長期看護経験者の82%は、介護休業・休暇を「どれも取得していない」。
- ・また、問題や困難に感じる方が71%と大半を占めている。

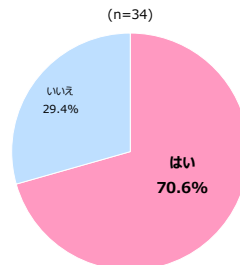
Q12：介護休業・休暇の取得状況

※ご家族・ご親族の介護・長期（2週間以上）にわたる看護経験者ベース



Q15：問題や困難に感じることの有無

※ご家族・ご親族の介護・長期（2週間以上）にわたる看護経験者ベース

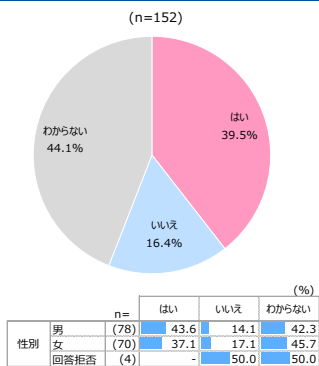


4. 学内ダイバーシティ推進状況把握 -LGBT

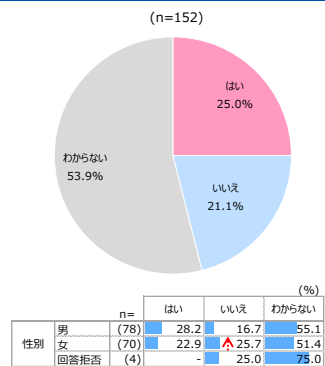
本学におけるセクシュアリティの状況

- ・本学が過ごしやすい環境と思うかについて、「はい」が40%と、「いいえ」16%より2.5倍多い。
 - ・本学内に相談できる場があると思うかについて、「はい」25%と「いいえ」21%が拮抗で、「わからない」も多い。
- ▶性別で見ると、女性の方が「いいえ」率が高い。

Q20：本学はご自身の性別やセクシュアリティの在り方に関わらず過ごしやすい環境だと思いますか



Q26：性別やセクシュアリティに関わる不都合について本学内に相談できる場があると思いますか



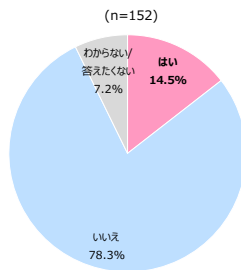
本学におけるセクシュアリティの状況 2

・セクシュアリティや性別に関する会話経験は、「はい」15%。

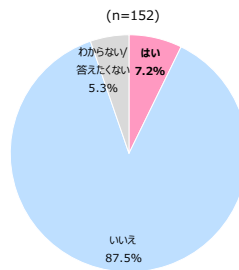
・セクシュアリティに関するカミングアウトや不都合を感じた経験は、「はい」が7~9%と少数ながら存在。

➤不都合の経験は、「わからない/答えたくない」が18%と、他の経験よりもやや多め。

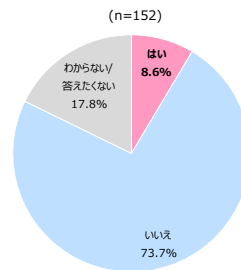
Q21：セクシュアリティや性別について話したことの有無



Q22：セクシュアリティや性別が典型的ではないことについて告白(カミングアウト)されたことの有無



Q23：本学内で性別やセクシュアリティに関わることで不都合を感じたことの有無



総括

総括

全体

- ✓ 「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ（特色型）」に採択されたことの認知率は57%。
- ✓ 「ベビーシッター利用の補助」「女性が拓く工学の未来賞」「女性研究者・技術者の会」の取り組みは認知率が6割以上と高い。

育児

- ✓ 育児と仕事を両立させる上で有効だと思われる施策・制度は多い一方で、その認知率にはばらつきがある。
- ✓ 育児と仕事の両立に、子有り層の8割弱が問題や困難を感じることもある。
- ✓ 問題や困難に感じた内容では、「子供が病気の際」「子供のイベント時」が多く散見される。

介護・ 長期看護

- ✓ 介護または長期看護の経験率は22%。
- ✓ 主に介護・看護を行っているのは「本人」が多く、次いで「被介護・看護者の配偶者」。
- ✓ 介護または長期看護経験者における介護保険サービスの利用経験率は53%。
- ✓ 利用したサービスは、「自宅にいて受けるサービス」「通所して受けるサービス」が多半数を超える。
- ✓ 介護または長期看護経験者の82%は、介護休業・休暇を「どれも取得していない」。
- ✓ また、問題や困難に感じる方が71%と大半を占めている。

LGBT

- ✓ 97%が性別を回答しており、「答えたくない」は3%。
- ✓ 本学が過ごしやすい環境と思うかについて、「はい」が40%と、「いいえ」16%より2.5倍多い。
- ✓ 本学内に相談できる場があると思うかについて、「はい」25%と「いいえ」21%が拮抗で、「わからない」も多い。
- ✓ セクシュアリティや性別に関する会話経験は、「はい」15%。
- ✓ セクシュアリティに関するカミングアウトや不都合を感じた経験は、「はい」が7~9%と少数ながら存在。